

# 踏み跡 <My Mountains>

茨城(常陸)	豎破山と東金砂山	No.289
--------	----------	--------



平成6年に土岳へ行った時、ついでに登ろうと思ったが時間切れで諦めた豎破山(たつわれさん)。長い間気になっていたこの山へ行く機会ができた。豎破山だけでは時間的に物足りないので、国道349号線の反対側にある東金砂山(ひがしかなさやま)との抱き合わせを考えて見た。

平成10年6月21日  
6時半、朝食後7時出発という効率の良い動き。車で出かけるには道路事情を考える必要があり、色々苦労があるものだ。

国道16号・柏IC経由で常磐自動車道へ。

那珂ICで降りて、通り慣れた国道349号線を北上。大菅から黒坂への道へ入るとにわか幅が狭くなり、危ない場所も何箇所か。

黒坂(北側の集落の南端)に9時30分に到着。車を停めて身支度を整え、9時46分出発。

歩き始めるとすぐに仏事に向かうと思われる(礼服を着た)ひとりの老人とすれ違った。

「おはよう!! たつわれさんにいくんかね?」笠智衆を思わせるような味わいのある風貌で声をかけられた。

「雨が降らないうちに登ってきます。お葬式ですか?」と尋ね返すと

「いやあ、ほうじじゃ」 なんだか温かい空気に包まれたような気分の一瞬だった。

豎破山登山口に10時17分着。大きな看板や指導標・標識などが沢山並ぶ立派な登山口に圧倒された。ここからは支流の沢沿いに杉林の中を緩やかに登るようになる。水の音が絶えず耳にやさしく届いてくる。豊富な水量でどこでも水場になるような気持ちの良い沢が続き、初夏の暑さも忘れさせてくれる。



豎破山(658.9m)11時着。ボランティアで山の手入れをしていると言う地元のおじさんとしぼし雑談の後昼食。展望台からは霞の中に高鈴山・神峰山、松の若木の上に土岳など近くの山が良く見えるが見える筈の日光は残念ながら見えなかった。昼食の後は薄日で暖をとりながら少々昼寝。12時19分出発。太刀割石・胎内石など名前が付けられた奇岩があるのでひとつひとつ観察して、さらに奈々倉の滝を見物して下った。(左写真:太刀割石)

黒坂の車デポ地点に13時50分に帰着。

国道に出て篠手で里川を渡って守金へ、そして陣場を抜けて明神の集落に14時20分到着。ここに車を停めて西に立つ東金砂山をめざす。

少しずつうねりながら、ゆったりと登って行く。林道歩きものんびりしていていいものだ。林道歩きの後には東金砂神社の石段を登って本宮へ。本宮の裏山が山頂になる筈だ。登山路の途中にある小さな手作りの祠の中に五段の雛段を作って小さな達磨を7,80個飾ってある。土地の人の心が見えそうな山道で、思わず顔がほころんでくる。本宮の石段は思いのほか長かった。数えながら登り始めたが、途中でわからなくなってしまった。60段ぐらいあったような気がする。

15時14分東金砂山(494m)山頂に到達。林の中の頂上は僅かな切り開きだけしかなく、展望台まであった豎破山とは大違い。しかし樹間から男体山が見えたので、まずは良しとする。(右写真:東金砂山山頂)



## 踏 み 跡 <My Mountains>

往路を引き返して明神の駐車地点に 16 時 10 分帰着。汗臭いシャツを着替えて、スープと紅茶のひとつき。16 時 25 分に出発して、家には 19 時 30 分に着いた。終日曇り空で、パーッとした晴れやかな山歩きではなかったが、梅雨時の割には雨にも会うことなく静かでのんびりした一日だった。

以上

### <閑話休題>

今では常陸太田市の一部となってしまったが、「金砂郷（かなさごう）」という美しい名前の村があった。地図上で発見した名前の響きに魅せられて、いささか興味を持った。そして、金砂郷には東金砂山と西金砂山という山があることも知った。その昔、金郷村と金砂村が合併してできたらしい。砂金が採れたことに由来する地名のようだ。